

冬休みの過ごし方を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 「クリスマス」や「年の暮れ」、「おおみそか」、「新年」と一つ一つの意味を考えて過ごせば味わい深く過ごせるが、とてもあわただしいので、ボーとしていると「アッ」という間に時間が過ぎてしまいがちなのが冬休み。
- (2) 冬休みのように長い休みは、児童・生徒・学生にとっては何かを成し遂げるのに絶好の期間。また、保護者にとっては特色ある家庭教育をするのに絶好の期間。事前に作戦をよく練り、有効に活用してほしい。
- (3) 冬休みにしたいことをいくつか考え、大事なことは、カレンダーや手帳に予め記入しておくことお勧めする。

2. 2008年をどのような年にしたいか考え、文章にしてみよう

- (1) 「一年の計は元旦にあり」で、1月1日になってから今年どうしようと考えてのもよいが、できれば12月31日までに新年はどうしようと考えて、たとえ短くてもよいから文章にまとめてみよう。
- (2) 1月1日から新しい手帳を使う人は、今のうちに買い求めて、2008年に対する自分の思いを手帳に書き込んでおくとよい。
- (3) 私は、2008年用の「1日1ページ」手帳を毎年9月に買い、10月から来年はどうしようと考え、考えがまとまるごとにこの手帳に書き込んでいる。

3. 冬休みは、読書をしよう

- (1) 読み残した本があれば、冬休み中に読み終えよう。「この本を読みたい」という本があれば、図書館で借りたり、お金に余裕があれば書店で買い求めて読んでみよう。
- (2) 気に入ったところがあれば、自分の本なら読みながら横に線を引いておき、「書き抜き読書ノート」に書き写してみよう。(図書館の本に書き込みはしないこと。)
- (3) 本は、よく考えながら5～6回読むと面白さが増す。

4．冬休みには、新聞を読んで考えよう

- (1)冬休みには毎日、小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 60 分以上新聞を読んで考えよう。
- (2)年末から新年にかけては、各新聞社は各社の総力をあげて世の中がどのように動いていくのかについて特集を組み、すばらしい内容の新聞を毎日出し続ける。
- (3)冬休みは、じっくり腰を落ち着けて 1 面からなめるように新聞を読み、考える毎日を送ってもらいたい。

5．冬期講習や正月特訓に参加する皆様へ

- (1)テキストの予習をしよう。予習をして何がわからないかをはっきりさせた上で、冬期講習に参加しよう。
- (2)授業には真剣に取り組み、わからないところがあれば、遠慮しないで先生に質問しよう。わからないまま放っておかないこと。
- (3)その日やった内容は、その日のうちに復習しよう。
「復習」とは、「定着」つまり身に付けるということ。

「音読練習」で、その日に学習したことで大事なことは、何も見ないですらすら言えるまでにしよう。

「書き取り練習」で、その日に学習したことで大事なことはすべて、「楷書(かいしょ)」で正確に書けるまでにしよう。

「計算練習」「問題練習」。その日にやったすべての計算や問題をもう一度やり直そう。大切な問題は、問題を見た瞬間に条件反射で答えが出せるまでにしよう。

6．おわりに

- (1)「ケータイ」の使用時間はできるだけ少なくしよう

内閣府の調査によると、携帯電話でメールやインターネットを利用する時間は、「男子高校生 1 時間 32 分」「女子中学生 1 時間 19 分」「男子中学生 1 時間 11 分」「女子高校生 2 時間 04 分」とのことです。

余りにも「ケータイ」を使用しすぎると、お金もかかり、目も悪くなり、時間のロスにもなります。よく考えて、「自律的な行動」をして下さい。

- (2)「自律的な活動をする」ことも能力です。

希望校に合格するための勉強も大切ですが、「高い志」を持ち、何のために生きるのか、何のために何を勉強するのかを考えることも大切なことです。

自分自身の行動を自分でコントロールできることは、社会人としての「最も重要な」能力の 1 つです。

以上